

しょうがっこうこうがくねんむ
小学校高学年向き

「ぼくは川のように話す」

ジョーダン・スコット／文
原田 勝／訳 偕成社 (Eモモ)

ぼくには、うまく言えない音がある。学校でもう
まく話せず落ち込んでいる僕を、お父さんは川へ
連れて行ってきて…。吃音のある詩人を支えた
少年の日のできごとを、心情あふれる言葉とみ
ずみずしい絵で描いた胸にせまる絵本。

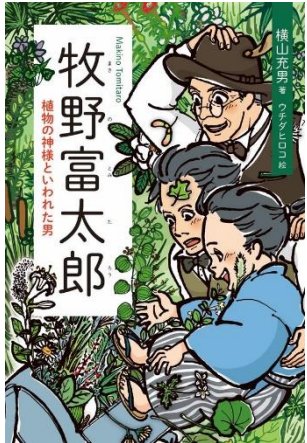


よんで よんで

としょかん しょうがくせい ほん しょうかい
図書館から小学生のみなさんにおすすめの本をご紹介します

No. 91 2022年12月発行 鶴ヶ島市立図書館児童サービス担当
*内容紹介は Tooli 新刊案内より

しょうがっこうていがくねんむ
小学校低学年向き



「牧野富太郎 植物の神様といわれた男」

横山 充男／著 くもん出版 (289マ)

研究に打ち込むとてつもない情熱。「もっと知
りたい」という探求心。わかるまで調べるあきら
めない気持ち。西欧の百年遅れといわれた日本の
植物学を押し進める行動力…。植物の神様とい
われた牧野富太郎の人物伝。

「消えゆく動物たちを救え」

子どものための絶滅危惧種ガイド

ミリー・マロッタ／著 鈴木素子／訳
光文社 (480マ)

砂漠に暮らすゴビヒグマ、ドラゴンの子どものよ
うなホライモリ…。個性的な野生動物たちの多く
が、いま絶滅の危機に瀕している。彼らの驚くべ
き生態を、美しいイラストとともに紹介する。
分布図や詳しいデータも掲載。



「カティとつくりかけの家」

福井さとこ／作・絵 ポプラ社 (フク)

大都会からひっこしてきた女の子・カティのあたらしい家は、
お父さんが5年がかりでたてた手づくりの家です。
その家は森へつづく裏庭や星のふりそそぐベッドがある
本当にステキなおうち！個性的な友達との出会いや
豊かな自然にかこまれ、カティはのびのびと成長をしていきます。

しょうがっこうていがくねん せ
小学校低学年向き



「おばあさんとトラ」

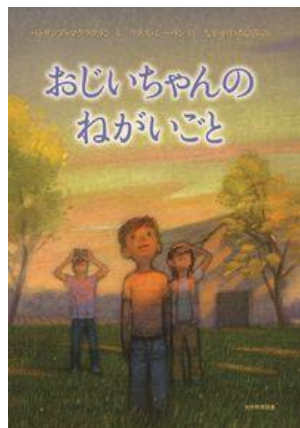
ヤン・ユッテ/作・絵 西村 由美/訳
徳間書店 (Eモモ)

毎日さんぼをする森でトラに出会ったおばあさん。
すっかりなついたトラをむかえ入れ、かけがえのない友情をはぐくみますが、いつしかトラは元気をなくしていきました。どうやら「ホームシック」にかかってしまったよう。最後はほろりと泣けてくる、人と動物の間に生まれた、きずなのおはなしです。

「おじいちゃんのねがいごと」

パトリシア・マクラクラン/文
クリス・シーバン/文 なががわちひろ/訳
光村教育出版 (Eモモ)

うまれかわったら、おじいちゃんは何にになりたいの？
わたしのといかけに「いつかわかるさ」と話してくれたおじいちゃん。鳥が大好きなおじいちゃんと孫たちの、鳥をめぐる物語は静かなやさしさに満ちています。かなしいだけではない別れが胸を打ちます。



「本屋のミミ、おでかけする！」

森 環/文 あかね書房 (モリ)

この、少し風変わりな帽子をかぶった女の子は、ミミです。地下にある本屋を手伝っています。ミミは本の世界が大好き。でも、外に出かけるのは苦手。あるとき、お店の中に飾られている絵を描いた仲良しの絵かきさんに遊びにおいでとさそわれたものの、ことわってしまいました。でも、絵かきさんが急に来なくなって、心配になったミミは…。ミミの勇気を応援したくなる一冊です。



しょうがっこうこうがくねん せ
小学校高学年向き

「家守神 1~3巻」

おおぎやなぎ ちか/作
フレーベル館 (913.6 オオ)

拓が住むことになった古い家には、幽霊でも妖怪でもない〈なにか〉がいる…。「家守神」と少年・拓が繰り広げる、ハラハラドキドキなエンタメシリーズ。見返しに4コマ漫画などあり。



「さくら村は大さわぎ」

朽木 祥/作 小学館 (クツ)

さくらの木がたくさん植わっている、さくら村。それぞれのさくらの木には名前がついています。そんなさくら村では、とんでもないことや、笑っちゃうことなど、毎日いろんなことが起きて…。幸せいっぱいの日常物語。



「コロキ paran 春を待つ公園で」

たかどの ほうこ/作
のら書店 (913.6 タカ)

コロキ paran、キララボン…。公園でチョコレートを売る私たちの耳を楽ませしてくれるのは、ひとりのおじさんが奏でるちょっとないほどにきれいな、オルゴールの調べでした…。春のはじめにおきた、小さな魔法の物語。

